

アグリ筑西

令和8年度 夏号

農作業中の熱中症
を予防しましょう！

発行：県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)
電話番号：0296(24)9206
FAX：0296(24)6979



筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス！↑

シリーズ「農業経営者に訊く」Vol.14

担い手確保と
産地維持

島田 智之さん(筑西市)

(経営品目：こだまスイカ、
抑制トマト、ハウスネギ、水稻)

島田さんは、JA北つくばこだま西瓜部会、同東部とまと選果場部会等に所属し、総勢6名（本人、母、従業員1名、実習生3名）で経営されています。常時雇用をいち早く導入し、経営規模拡大を図りながら家族との時間を最優先に確保されています。また、令和7年に農業経営士に認定され、担い手確保や産地の維持・発展に向けた活動が行われています。



経営の目標について教えてください。

私の経営理念は『自分が納得し満足する人生・仕事をしたい』『家族・従業員も充実した生活を送る』『地域に貢献できるような経営体を目指す』です。

これらの達成のため『売上額の向上』、『週1日以上のお休みを確保』、『従業員にここで働いてよかったと思ってもらえるような経営の実践』を目標としています。

産地の担い手となってもらえるよう、受け入れた従業員は数年後に独立してもらうことを考えています。こだまスイカ、トマトは年に1作のため、じっくり学び、しっかり独立していけるよう、栽培技術と農業経営を伝えていきたいと考えています。



県立農業大学校講座にて
こだまスイカの栽培技術、
雇用就農について学生にア
ドバイス

今後の挑戦について教えてください。

近年のトマトの暑さ対策が産地全体の課題となっています。生産者間での情報交換により、さらなる品質向上と安定生産を目指し、技術力を高めたいと考えています。

魅力ある経営を示せるよう、チャレンジし続けたいと思います。「人が育ち、笑顔で仕事ができることが、産地を維持することにつながる」と思っています。



こだまスイカ高温対策として
外気導入機の活用を試行中

貴重なご意見を聞かせていただきありがとうございました。
これからも農業経営者として地域を牽引されることをご期待いたします。



【暑さに負けない米づくり対策】

近年、夏季の高温により、水稻では、白未熟粒の多発やくさび米・やけ米・斑点米などの着色粒による品質低下が大きな課題となっています。



令和7年産米では、白未熟粒だけでなく着色粒による被害も大きくなり、特に以下の点が品質低下の要因となりました。今年も高温が予想されることから、対策の徹底が大切です。

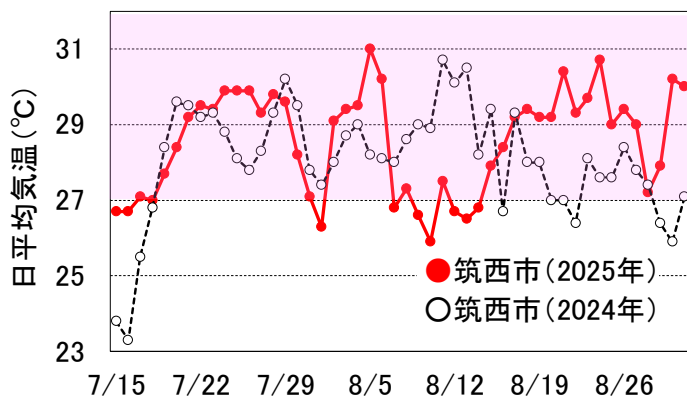


図 7~8月の平均気温の推移(筑西市)

注) 平均気温は筑西市下館のアメダスデータを用いた。

＜令和7年産米で見られた主な問題＞

- ① 7月中旬以降、白未熟粒が増加しやすい「日平均気温27℃以上の高温」が続いた。
- ② 7月上旬に、斑点米カメムシ類の発生量が過去11年で2番目に多くなった。

気象条件が厳しさを増す中でも、適切な対策を講じることにより、米の品質を高めることが可能です。

令和8年産米の品質向上に向けて、地域全体で取り組みを進めていきましょう。



令和8年産米の1等米比率の向上に向けて…

ポイント1 「5つの基本技術」を守りましょう

1. 早生・中生・晩生の品種を組み合わせ、高温リスクを回避！
2. 早めの中干しで茎数を抑制！
3. 出穂後は間断かんがい（自然落水→田面が乾く前に入水）、落水時期は「早生で出穂後25日～、中生で出穂後30日～」で白未熟粒の発生を軽減！（※下図参照）
4. 収穫開始は籾の色で判断！適期収穫で胴割米抑制
5. 足元から改善！堆肥の施用と15cm以上の深耕の確保



※対策技術の詳細については、茨城県HPをご覧ください。

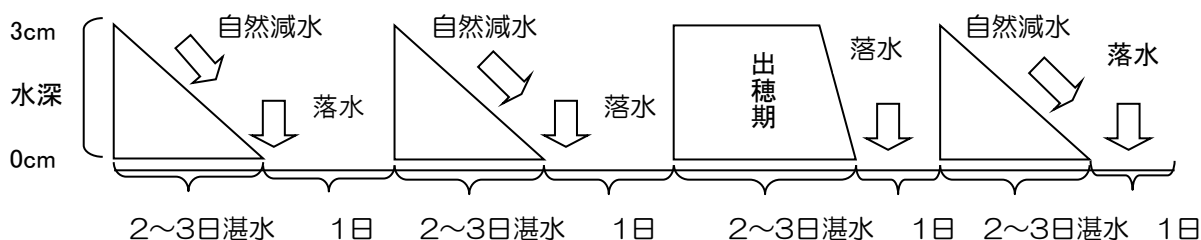


図 「間断かんがい」のイメージ

注) 出穂前後は、水分を保つ。

ポイント2 高温対策として**実肥**を行いましょう

●出穂期の頃に葉色が淡いと
予想される場合には・・・

出穂前2～3日頃に
10a当たり、窒素（チッソ）1kg程度の実肥を行いましょう

出穂期の頃に葉色が淡くなりすぎると、白未熟粒が発生しやすくなります。
低タンパクを目指した良食味米づくりや、登熟期の一発肥料の肥効切れが、
高温による品質低下を助長している可能性があります。
健全な登熟のため、水田の状態をこまめに確認し、適切な管理を心がけましょう。



ポイント3 **斑点米カメムシ類の対策**を徹底しましょう

① 出穂2週間前までの畦畔の草刈り

② 今年の発生情報の確認

県では、イネカメムシを含む斑点米カメムシ類の発生量調査を
行っています。最新情報は、茨城県病害虫防除所HPをご覧ください。→



茨城県病害虫防除所HP

③ 薬剤による防除



イネカメムシの成虫
(写真は県農業研究所より)

1回目 成虫の飛来期
(出穂期～穂ぞろい期)

この時期に集中的に加害されると、
不稔（青立ち）になり、減収
につながります。

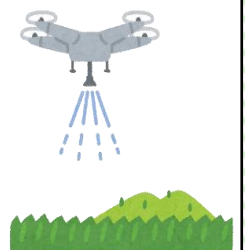


イネカメムシの幼虫

2回目 幼虫の発生初期
(乳熟期：出穂後10～15日頃)

この時期に集中的に加害されると、
斑点米の発生につながります。

2回目の追加防除は、
発生状況に応じて実施しましょう。



ドローン防除も増えて
います

水田の出穂期が周辺の圃場とずれると、斑点米カメムシ類が集中して加害
し、減収につながる恐れがあります。
日頃から水田の様子をよく観察し、斑点米カメムシ類を確認した際には、
適切な時期に防除を行いましょう。

「いばらきみどり認定」を取得してみませんか？

いばらきみどり認定は、「環境と調和のとれた食料システムの確立のための
環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律（みどりの食料システム法）」に
基づいて、化学肥料や化学農薬の使用低減等の環境負荷低減に取り組む農業者
を、知事が認定する制度です。認定により、さまざまなメリットを活用するこ
とができます。

申請を希望される方は、普及センターまでご相談ください。



茨城県農業技術課HP

令和8年度農業経営士等の認定者・退任者紹介

茨城県では、農業の担い手育成と地域農業振興を進める地域リーダーとなる優れた農業者を農業経営士・青年農業士として認定しています。

(※令和6年度認定より、農業経営士と女性農業士が農業経営士に統合されました。)

7月3日にザ・ヒロサワ・シティ会館(水戸市千波町)において認定式並びに退任式が開催されました。当管内から、新たに農業経営士2名、青年農業士1名が認定され、農業経営士1名、青年農業士4名が退任されました。

〈認定者〉

●農業経営士



廣瀬 敦士氏 (桜川市) 谷島 正章氏 (桜川市)

●青年農業士



大里 剛史氏 (下妻市)

〈退任者〉

●農業経営士

藤田 益弘氏 (桜川市)

●青年農業士

倉持 信也氏 (下妻市)

谷島 大輔氏 (筑西市)

小波 智志氏 (筑西市)

長島 剛氏 (桜川市)

退任されました皆様、長きにわたり多大なるご尽力を賜り、誠にありがとうございました。
また、認定されました皆様の今後のご活躍を期待しております。

令和8年度農業学園 受講生大募集！

農業学園とは、筑西地域農業改良普及センターが開催する講座で、これからの農業経営において必要となる技術や知識を学んだり、新規就農者同士の情報交換、仲間づくりなどができます。

今年度は、土づくり講座や病害虫・農薬安全使用講座等の基礎的な講座に加え、先輩生産者の栽培技術を学ぶ先進事例研修、安定的な農業経営を実施していくために必要な知識を学ぶ農業経営講座等を予定しております。

興味がございましたら、当普及センターにお気軽にご連絡ください。

- 7月 先進事例研修(坂東管内・広域)
- 8月 土づくり講座
- 9月 先進事例研修(結城管内・広域)
- 11月 先進事例研修(筑西管内・広域)
- 12月 農業経営講座
- 1月 プロジェクト発表会
- 2月 病害虫・農薬安全使用講座

県西農林公式Xフォロワー募集中！

県西農林事務所公式Xでは、魅力ある農林畜産業の情報を幅広くお届けしています。アカウントをフォローして最新の情報を受け取りましょう！

農業に関するイベント開催情報、農産物の旬な情報など取材に伺います！

【お問い合わせ先】茨城県県西農林事務所 企画調整部門企画調整課
連絡先 0296-24-9164 E-mail nishinourin01@pref.ibaraki.lg.jp



☆最後に・・・、農業者のみなさま、農作業中の熱中症を予防しましょう！

- ①日中の気温の高い時間帯には、作業を行わない。単独での作業は避ける。
- ②のどがかわいていなくても、20分おきに毎回コップ1～2杯以上、水分補給する。
- ③熱中症対策アイテムを活用する。
- ④万が一に備え、携帯電話を持ち歩く。



予防を心がけましょう



農林水産省
ホームページ
「熱中症対策」